

—伽耶山国立公園紀行—

(文・写真 岡本)

大蔵經(一切經)とは、仏典や經典(律蔵、經蔵)、更にそれらを解釈した論書などを集大成した叢書をいう。韓国の伽耶山海印寺(注1)には、8万余の白樺の板木からなる高麗八萬大蔵經が存在する。同大蔵經は、現存する木版の大蔵經の中で世界で最も古く、且つ完璧なものとされており、大蔵經を納めた大蔵經板殿は、1995年にユネスコ世界文化遺産に登録された。

世界文化遺産の海印寺を優しく懐に抱えているのが、伽耶山(標高1430m)(注2)である。2003年10月3日から4日にかけて伽耶山の主峰を登頂した。登山ルートは慶尚南道陝川郡の海印寺側からのルートと慶尚北道星州郡側のルートがあるが、ソウル帰京時間の関係で交通便利な海印寺ルートを登った。

3日ソウル高速バスターミナルで東大邱行き9時20分発の韓進高速バス(特等9400ウオン)に乗った。窓外には翳雲が浮遊、報道によると台風と天候不順で全般的に不作だというのが、田畠は秋の実りを謳歌しているように見える。途中休憩所で偶々口にしたホドクワジャ(たこ焼きのタコの代わりにクルミが入ったもの)が美味で一袋ぺろりと食べた。午後2時頃、東大邱高速バスターミナルに到着した。地下鉄に乗り換え聖堂池駅近くの西市外バスターミナルで海印寺行きのバスに乗ることになる。ところが、去る3月に起こった地下鉄火災の復旧工事がまだ続いていたため、東大邱—教育大学間はシャトルバスに乗り、また地下鉄に乗り換えて聖堂池まで行った。満員の地下鉄では青年に席を譲られたが、もう譲られる程に老いたのかと、言いようのない気分させられた。聖堂池駅近くの西市外バスターミナルで3時過ぎ発の海印寺行きバスに乗った(3900ウオン)。

車内には登山姿は他にいない。秋色を漂わせ始めた伽耶川の紅流堂溪谷沿いになると、海印寺バス停は近い。1時間の乗車で海印寺バス停に到着、停車するや否や伽耶国立公園管理事務所の切符売り係が車内に乗り込んできて、2800ウオン(国立公園入園料1300ウオン、海印寺拝観料1500ウオン)を徴収した。車中で徴収するとは親切なのか強引なのか、いずれなのだろう。ソウルのマンションを8時に出てから8時間半、既に午後4時半を過ぎていた。この辺りは、商店、コンビニ、食堂、旅館、ホテル、駐車場、郵便局などがあって、利便性の高い「観光施設地区」として開発されている。地区には旅館の客引きおばさんが徘徊しており、その一人に宿は決まっているかと尋ねられた。宿賃は2万ウオンで風呂もついていると言って指差した目前の文化荘が小綺麗に見えたのでそこに決めた。おばさんのひどい慶尚道訛り(注3)に好感が持たれて懐かしく、1970年代初の釜山勤務当時が思い出された。

宿にザックを置き、早速海印寺を訪れた。70年代に訪れた際とは異なり、再建された堂宇があり、伽藍は立派になっていたが、大蔵經板殿の600年の古色蒼然たる佇まいはそのままであった。食堂街に戻って食べた山菜料理(1万ウオン)は変哲もない素人料理であった。

翌朝7時に旅館を出た。手の甲がヒヤリとする。伽耶川紅流洞溪谷の清流沿いに海印寺一柱門(南大門)まで約1kmのセメント舗装された参道を緩やかに登る。参道両側の樹木の狭間から幾つかの草庵が垣間見える。7時半頃一柱門前を經由、少し先の龍塔禪院の広場に道標「サンホワン峰4km」がある。ここより本格的な山道になる。仙遊橋で左岸に渡ると、その後の木橋は土砂崩れで流されており、無惨にも根方から崩れた倒木が幾つも目についた。台風の被害だ。こちら

の樹林はミズナラやコナラで溪流と調和して美しい。海印寺から 20 分で分岐に出る。案内板には、右方向の山道 1.9km は「自然休息年制区間」により通行禁止(2003 年 1 月から 5 年 12 月末まで登山道回復のため)となっており、遠回りであるが、右方向に進む。15 分程緩やかにのぼると、道標「磨崖仏立像 2.2km」に出る。ここで 5 人組の登山者に抜かれたが、それまで全く人影を見なかった。木の実がカサッと奇妙な程に大きな音をたてて落ちてくる。道標 880m を過ぎた辺りから緩斜面が急登になるが、難所には階段があつて厳しくはない。9 時に磨崖立像に至る。豊頬の丸顔で豊満な肢体をもつ立像は、和顔愛語の釈尊のお姿だ。一人のご夫人が念仏を唱えている。立像の地点は標高 960m、若干降って登り返すと、20 分程で自然休息年制区間から登ってくる道と合流した(9:20)。山頂まで残り 1.4km である。



海印寺



磨崖立像

標高 1000m 辺りから、樹高が 5m 程と低い雑木となり、山道には陽が差し明るくなった。やがて樹間に伽耶山の岩稜が見え隠れし始める。先行した 5 名の発声なのか、ヤッホーの声が聞こえる。山容が一望できる辺りに来ると、ヘリポートがあつた(9:50)。樹林は灌木帯となり、山道は岩間を這うような急傾斜になる。階段や鎖があるので危なくはない。頂上近くの胸突八丁の岩場を 200m 程進むと、道標「標高 1380m」「サンホワン峰 0.2km」「海印寺 3.8km」に着く。この先 200m 程は岩盤上を進む。濡れておれば要注意である。陽光が眩しい。風がヒューと火照った体を快く癒してくれる。山頂に続く最後の 20m は階段である。10 時 45 分、階段を登り切ると頂上であつた。

岩峰に突き刺さるように立つ 2m 程の石碑に「牛頭峰(サンホワン峰 1430m 陝川郡)」と刻まれている。山頂は平坦部がなく、数人が座ると余裕のない狭さである。山頂には別ルート星州郡から登った二人がいた。主峰の牛頭峰からは 360 度の展望が利き、1000m 級の峰々が取り囲んでいる。東方向に続く岩稜の先には七仏峰(標高 1433m、主峰より 3m 高い)、東星峰(標高 1227m)、南方向には梅花山、南山第一峰などが一望できる。20 分程黙々と四囲を眺めていると八正道の何かに近づきつつあるような不可思議な想念が湧いてくるような錯覚に陥った。



登ってきた同じ道を海印寺に降った。下山には 2 時間 40 分で海印寺一柱門経由、西市外バス海印寺バス停に着いた。バス、地下鉄を乗り継ぎ、9 時半にソウル中心街の高速バスターミナルに着いた。

(了)

牛頭峰

(注1)海印寺=統一新羅 802 年に創建された韓国三大寺院の一つで、法宝寺院とも呼ばれる。何度も火災に見舞われ、現本殿は 19 世紀に再建。高麗八萬大蔵経を納める大蔵経板殿は 15 世紀末の建立で海印寺で最も古い建物。大蔵経は高麗が国家繁栄を願って 13 世紀初に板木作りに着手、15 年かけて完成し、板木は 14 世紀末に海印寺に移され保存された。三宝とは、仏、法、僧をいい、悟りを開いた仏、仏の教えを集大成した法、仏弟子の出家僧集団の僧である。海印寺は教えを集大成した経典のあるところなので法宝寺院と言われる。

(注2)伽耶山=韓国慶尚南道の北西部(陝川郡)と慶尚北道南西部(星州郡)の境にある山塊で 1972 年に国立公園に指定。主峰は牛頭峰(標高 1430m)で周辺に 1000m 級の峰々を取り巻く。

(注3)慶尚道訛り=韓国の方言は大きくソウル(柔らかく女性的)、全羅道(発音がトゲトゲしい)、慶尚道(田舎臭さがあるが、男性向き)がある。釜山は慶尚道訛りである。